

学校の読書活動を紹介します

本市では、児童の90%以上が年間50冊以上の本を読み、県の平均(64%)を大きく上回っています。読書が盛んな理由について、学校取材しました。
※県が推進する「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」令和3年度調査より



本を読みたくなる仕掛け 河間小学校

本を借りてスタンプを集めるとクラフトキットを渡したり、七夕の時期には本を借りると短冊をプレゼントしたりして、児童が楽しみながら読書できるよう仕掛けづくりをしています。



図書室で授業を実施 関城西小学校

国語や総合的な学習の授業で積極的に図書室を活用し、本と触れ合う機会を増やしながら学習を進めています。授業の内容に合わせて市立図書館からも本を借り、多様な本で子どもたちの知識の幅を広げています。



朝の読書活動 中小学校

毎週火曜・木曜日の朝に読書活動の時間を15分間設け、児童一人ひとりが自分の読みたい本を読んだり、クラスで先生が読み聞かせを行ったりするなど、児童の読書習慣の定着を図っています。

子どもたちへ魅力ある学校図書室を

— 学校図書室の充実に向けた取組み —

将来社会に羽ばたく子どもたちにとって、読解力や想像力、思考力、表現力などを養う「読書」はとても大切な活動です。今回、学校の読書環境を紹介します。

【問】学務課(本庁3階) ☎22-0181

(1) 学校図書室の現状と未来

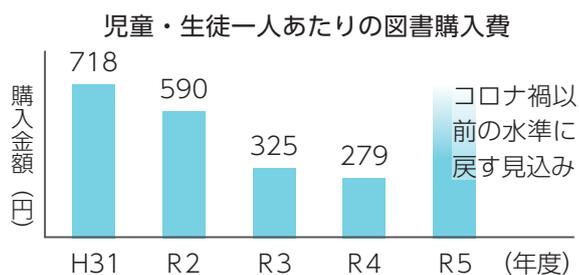
これまで小中学校の図書室では、文部科学省が定める「学校規模に応じた標準的な蔵書数」と同等の本を購入し、充実した読書環境を整備してきました。

しかし、令和2年度以降新型コロナウイルス感染症拡大により、児童・生徒が安心して学校生活を送れる環境整備のため、図書などの購入費用を減額し、感染拡大防止対策の費用に充ててきました。

感染拡大防止の環境が整ってきたことから、令和5年度は、図書購入費をコロナ禍前の水準に増額し、図書資料の充実を図る予定です。

数字で見る ちくせいの学校図書室事情

学校規模に応じた標準的な蔵書数(令和3年度)	243,000冊
筑西市(令和3年度末)	242,313冊 99%達成



(2) 市立図書館と学校の連携

市立図書館(中央図書館、明野図書館、関城分館、協和分館)の本を学校へ貸し出すことで、児童・生徒の読みたい本や新しい本を手にする環境を整えています。この活動により、毎年約2万冊の本が学校に届けられています。

また、市立図書館の年間図書購入費約2,000万円のうち約1/3(600万円以上)を児童書の購入に充て、子どもたちの読書環境づくりに取り組んでいます。今後も市立図書館と学校が連携して、子どもたちに深い学びを提供し、読書に興味を持つ子どもたちが増えるよう取り組みます。